

事項八 大倉組ノ江蘇省秣陵関附近鉄山開発ニ関スル交渉一件

五一八 一月二十二日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛

鳳凰山鉄鉱ニ関スル交渉促進方高外交次長及
江農商次長ニ申入ノ件

附屬書 一月二十一日鳳凰山鉄鉱問題ニ関スル船津

書記官及江農商次長会谈大要

機密第三一号 (一月二十九日接受)

大正七年一月二十二日

在支那

臨時代理公使 芳沢謙吉(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

鳳凰山鉄鉱ニ関スル件

本件ハ客年中谷鐘秀ノ農商総長タリシ際同総長ノ強硬ナル
反対アリシ為一時行悩ノ状態ナリシカ其後段総理再ヒ内閣
ヲ組織スルニ及ヒ同総理モ最初ハ從來ノ方針ヲ襲踏シ反対
ノ態度ニ出テシモ当館ヨリノ熱心ナル抗議ニ依リ遂ニ大倉

組代表河野久太郎陸軍次長徐樹錚及交通総長曹汝霖トノ
間ニ非公式ノ協議ヲ進行セシムル事トナリシハ既報ノ通り
ニ有之候処客冬段総理辭職内閣ノ更迭ト共ニ本件ハ再ヒ頓
挫中絶ノ姿ト相成居候ニ付林公使ヨリ先般別紙写ノ通り外
交部ノ注意ヲ喚起シ本件再交渉ノ端緒ヲ作ラレ候後本月十
一日日本官高外交次長ヲ往訪督促ニ及ヒタルニ同次長ハ本件
ハ既ニ地方ノ大問題トモ成リ居リ何分即答致兼スルモ何レ
農商総長ト協議ノ上何分ノ回答ニ及フヘキ旨答ヘ候処昨廿
一日他用ヲ以テ再応同次長往訪ノ節先方ヨリ本官ノ要求ニ
関シ農商総長ト協議ニ及ヒタルモ本件ハ一時曹交通総長カ
参与シタル關係アリ同総長ト一応打合ノ必要アルモ同総長
ハ先般負傷後尚引籠中ニ付今暫ク猶予アリタキ旨申出候尚
同日船津書記官ヲシテ直接農商次長ニモ会見督促セシメ置
候処其会谈大要御参考迄別紙相添此段及報告候也

本信写送付先 南京領事

(附屬書)

一月二十一日鳳凰山鉄鉱問題ニ関スル船津書記官及農商次
長江天鐸会谈大要

船津書記官

本件ニ関シテハ曩ニ我公使館ヨリ外交部ヘ其後ノ成行公文
ヲ以テ問合ハセ本月十一日芳沢代理公使親シク高外交次長
ニ会見更ニ督促ニ及ヒタル処同次長ハ過日ノ公文ハ当時早
速農商部当局ニ移牒シ置キタルモ未タ其回答ニ接セス本件
ハ自分(高)モ能ク承知セサルニ付親シク農商部当局ト協
議研究ノ上改メテ何分ノ回答ニ及フヘシト答ヘラレタルモ
今尚何等ノ挨拶ニ接セス因テ本日ハ芳沢代理公使ノ命ニ依
リ本件ニ対スル貴部ノ意向ヲ確ムル為來訪シタル次第ナリ
江次長

本件ニ関シ外交部ヨリ貴館ノ公文ヲ廻付シ來リ其後更ニ高
次長ヨリ親シク田総長ニ打合アリタリ元來本件ハ最初農商
部ノ処理ニ歸シ居リタルニ客年夏段総理再ヒ内閣ヲ組織シ
テヨリ曹汝霖徐樹錚両氏ト大倉組トノ間ニ何等カノ協議進
行中ノ由聞及ヒタルモ其詳細ヲ知ルニ由ナカリシニ付今後
本件ヲ農商部ニテ処理セントスルニハ一応今尚閣員ノ一人
タル曹汝霖氏ト打合ノ必要アリ其上ニテ何分ノ回答ニ及フ

ヘシト田総長ヨリ高次長ヘ答ヘラレタル筈ナリ然ルニ最近
江蘇省長ヨリ農商部ニ轉達シタル江蘇省議會ノ決議ニ依レ
ハ鳳凰山鉄鉱ハ目下南京紳士等ノ組織セル秣陵公司ヨリ民
資五十万弗ヲ醸出シ江蘇省ヨリ官資五十万弗ヲ出サシメ百
万弗ノ官商合弁会社ヲ設立シテ經營スル計畫ナル由要スル
ニ南京地方ニ於ケル一般ノ希望ハ飽迄右鉄山ヲ地方的公共
財産トシ外人トノ關係ヲ絶タントスルニ在ルモノノ如シ農
商部ニテハ同地方人民ヨリ再三ノ懇請アリシニ拘ハラス鳳
凰山鉄鉱ノ採掘權ヲ前記秣陵公司ニ許シタル次第ニ非ル
モ左リトテ漫然之ヲ拒絶スルコトモ困難ナル事情アリ就テ
ハ大倉組ニテハ曾テ同会社既得ノ利益ヲ侵害セラレサル限
リ相手方ノ誰ナルヤハ必スシモ固執スルニ及ハスト言明セ
ラレタル關係モアリ今後華賓公司ヲ放棄シ秣陵公司ヲ支那
側ノ相手トシテ話ヲ進行サレテハ如何カト存ス尚其經營方
法等ニ就テモ何等具体的方案アラハ内示サレタシ序ニ是ハ
全然一個人トシテ友人タル貴下ニ内話スル次第ナルカ本件
ハ如何ナル事情アリシ為ナルヤ本問題發生當時ノ農商総長
谷鐘秀非常ニ反対シ種々ノ口実ヲ設ケテ極力華賓公司ノ採
鉱權ヲ取消ス事ニ苦心シタル形迹ハ是迄ノ一件書類ニ徴シ

歴然タリ農商部トシテハ既ニ幾多法規上ノ理由ヲ楯トシテ華寧公司ノ採鉱權ヲ公式ニ取消シタル以上仮令総長ノ更迭アリタリトテ何等充分ノ理由ナクシテ漫然華寧公司ノ採鉱權ヲ復活セシムル事ハ到底出来兼ヌル次第ニテ是前任総長張國淦氏カ日本ニ対シ一時本件ニ反対セリトノ誤解ヲ招キタル所以ナリ

船津書記官

苟モ大倉組ノ既得權利侵害セラレサル限り相手方ノ誰ナルヤハ必スシモ固執スルニ及ハサルモ秣陵公司ノ如キ多数ノ集合体換言スレハ省議會ノ力ニテ左右セラルル如キ団体ヲ相手トシテハ事業ノ進行到底望ナキハ江西鐵道ノ実例ニ徴シ明カナリ故ニ若シ農商部ノ都合上華寧公司ノ復活ハ困難ナリトスレハ農商部ナリ或ハ江蘇地方政府ナリ官辺側ヲ一方ノ相手トシテ協議ヲ進行セシムル方得策ナラント信ス又鉄鉱業ト製鉄業トハ可成同一ノ会社ニ依リテ經營セラルル方利益ナリ若シ強テ分離經營ノ必要アリトスレハ形式ニ於テ分離スルモ經營ノ實際ニ至リテハ兩々緊ク聯結シテ利益ヲ共通セシムル事肝要ナリ

江次長

何レ詳細田総長ニ本日談話ノ次第ハ復命シ協議ヲ遂ケタル上ニテ兩三日中ニ何分ノ挨拶致スヘシ

五一九 二月十三日 在中國芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

江農商次長ヨリ鳳凰山鉄鉱ニ関スル日本側ノ

希望問合ニ対シ船津書記官ヨリ大倉組ノ希望

伝達ノ件

第一八三号

二月十日江農商務次官船津ニ対シ鳳凰山問題ハ從來曹交通総長モ参与シ居リタル關係上同総長ト打合ノ必要アリシモ同総長過般來引籠中ノ為今日迄其低トナリ居リタル次第ナルカ同総長モ既ニ全快出勤スルコトナリタルニ付不日國務會議ニテ本件ニ関シ一応ノ相談ヲ為ス積リナル処參考ノ為メ予メ日本側ノ希望ヲ承知致置キタシトコトナルニ付船津ハ河野ト相談ノ上二月十三日江次長ヘ大倉組ノ希望トシテ第一、華寧公司ヲ復活セシメ同公司ト既ニ締結シ居ル鉄石売買契約ニ対シ其筋ノ許可ヲ得度キコト第二、若シ右第一カ到底実行不可能ナル場合ハ鉄鉱及製鉄所共ニ支那人ト合併ノ方法ヲ執ルコト第三、万一南京地方人民ノ反対激

烈ナル為メ支那人限りニテ実行困難ナル場合ハ鉄鉱ノ經營丈ハ南京地方人民ヲモ参加セシメ支那官民合同ニテ大倉組ト合併ノ方法ヲ取ルモ差支ナカルヘシト答ヘ置キタル由ナルカ右ハ勿論船津カ個人の資格ニ於テ江次長ニ内報シタルニ過キサル次第ニ付右様御含置ヲ請フ

五二〇 六月十九日 大倉組門野重九郎ヨリ
小幡政務局長宛

鳳凰山鉄鉱開鑿ニ関スル中国側及大倉組間ノ

交渉状況報告ノ件

附屬書一 中国側提案

二 河野対案

拝啓

鳳凰山問題御報告ノ件

本件ハ貴省ノ御援助ニ依リ昨年末交渉稍進行ヲ見申候処段氏失脚ノ為メ一頓挫ヲ来シ今春再ヒ段氏ノ内閣ト相成候ヲ俟テ弊社在北京河野交渉ヲ開始致居候処何分ニモ南北爭乱ノ為メ支那側当局者多忙ヲ極メ進捗意ノ如ク不相成申焦心罷在候処先月ニ至リ漸ク機ヲ得非公式ニ支那側ヨリ提案(別紙甲案イ、ロ、ハ号)ヲ見之ニ対シテ在北京河野ハ別

八 大倉組ノ江蘇省秣陵關附近鉄山開鑿ニ関スル交渉一件

紙乙案イ、ロ号ヲ矢張り非公式ニ提出シ折衝中ニ有之候当方ハ合併持株ヲ五十マテニスルコトニ致シ纏メル様申遣シ置キ候ニ付成功ヲ見ルヘク考ヘ居リ候御報告申上度支那側及河野提案同封供御高覧候

敬具

(附屬書一)

甲案(支那側提案)イ、ロ、ハ各号

甲案イ号

鳳凰山鉄鉱公司章程

一、鳳凰山秣陵關一帶ノ鉄鉱ハ陸軍部ニテ鳳凰山鉄鉱公司ヲ設立シ株式ヲ募集シ自弁スルモノトス

二、本公司資本ハ銀元五百萬元トシ毎株一千元五千株ト定ム陸軍部ニ於テ株式ヲ公募シ數ニ充タサル時ハ政府之ヲ補足ス但シ陸軍部ハ事業進行ノ程度ニヨリ資本額ヲ數回ニ分テ払込ヲ為サシム

将来増資ノ場合モ前項ノ規定ニ從ツテ弁理ス

三、本公司株券ハ総テ記名式トナシ中国人以外ノモノニ売却或ハ譲渡スルヲ得ス

四、本公司ノ採取セル鉄石ハ専ラ陸軍部ノ設立スル〇〇製鉄公司ニ売渡シ該公司製造セル鉄鋼ハ政府ニテ優先購買スルモノトシ政府需要セサル時ハ他ニ売渡ス事ヲ得但シ

本公司採取セル鉄石カ〇〇製鉄公司ノ需要ニ超過スルトキハ任意ニ之ヲ売却スル事ヲ得

五、本公司カ〇〇製鉄公司ニ供給スル鉄石ハ本公司ノ採掘ニ要スル一切ノ費用ニ其ノ十分ノ二ヲ加ヘテ鉄石売価トシ本公司以外ノ鉄石ハ価格ノ高下ヲ論セス〇〇製鉄公司カ本公司ノ採掘セル鉄石全部ヲ規定ノ価格ヲ以テ買取リシ場合ノミ購買スルコトヲ得ルモノトス

但シ〇〇製鉄公司ノ利益カ資本ノ十分ノ二ヲ超過セル時ハ其ノ超過額ハ両公司払込ミ資本金額ニ按分シテ分配シ以テ鉄石価格ヲ増加スルモノトス

六、本公司ハ陸軍部ヨリ請願ノ上督弁一名ノ任命ヲ乞ヒ督弁ハ坐弁一名ヲ任命ス総テ陸軍部ノ監督ヲ受クルモノトス

但シ本公司督弁ハ陸軍部ノ許可ヲ得テ〇〇製鉄公司督弁ヲ兼任スルコトヲ得

七、本公司弁事章程ハ督弁ヨリ陸軍部ニ上申シテ之ヲ規定ス

甲案口号

〇〇製鉄公司章程

一、政府ハ鳳凰山鉄鉱公司ノ鉄石ヲ製鍊スルノ目的ヲ以テ陸軍部ヲシテ〇〇製鉄公司ヲ設立セシメ株式ヲ募集シ自弁セシム

二、本公司資本金額ハ銀參千萬元トシ毎株一千元參万株ト定ム陸軍部ヨリ株式公募ヲ為シ其ノ応募額規定額ニ達セサル時ハ政府之ヲ補足ス

但シ陸軍部ハ事業進行ノ程度ニヨリ資本金額ヲ數回ニ分テ払込ム事ヲ得将来増資セントスル場合モ亦前項規定ニ從ツテ弁理ス

三、本公司株券ハ分テ記名式無記名式ノ二トス無記名式株券ハ全株數ノ拾分ノ四ヲ以テ限ト為ス

四、本公司記名式株券ハ中国人以外ノ者ニ売却或ハ譲渡スルヲ得ス

五、本公司ノ製出ニ係ル鉄鋼ハ政府ニ於テ優先購買スルモノトシ政府需要セサル時始メテ他ニ売却スル事ヲ得但シ何人ニ売渡スニ論無ク総テ最高ノ市価ヲ以テ売渡スモノトス

六、本公司ハ陸軍部ヨリ請願ノ上督弁一名ノ任命ヲ乞ヒ督

弁ハ坐弁一名ヲ任命ス総テ陸軍部ノ監督ヲ受クルモノトス

七、本公司弁事章程ハ督弁ヨリ陸軍部ニ請願シ批准ヲ得テ之ヲ遵守ス

八、本公司ハ毎年一回督弁ヨリ株主代表會議ヲ招集シ左記事項ヲ決議シ督弁ヨリ陸軍部ニ上申シ之ヲ執行ス

甲、公司事業進行計画

乙、營業報告及利益分配

但シ督弁ニ於テ事業進行上重要ノ計画ト認メタル時ハ臨時會議ヲ招集スルコトヲ得

九、株主代表ハ本公司一切ノ帳簿ヲ監査スルコトヲ得

十、株主代表ハ二名ト定メ記名式株主中ヨリ之ヲ選舉ス

十一、株主代表會議ハ督弁ヲ以テ議長トシ各株主ノ意見合ハサル事項ハ督弁モ表決ノ列ニ入り多數ノ意見ニ照ラシテ之ヲ決定ス

十二、本公司營業期間ハ參拾ケ年ト定ム満期ニ至リ陸軍部ハ情勢ヲ斟酌シテ之ヲ継続セシムル事ヲ得

十三、鳳凰山鉄石購買代価ニ関シテハ本公司ハ鳳凰山鉄鋼公司章程ニ從フ

十四、本章程ヲ改修スルノ必要アリト認メタル時ハ株主代表會議ノ議決ヲ經テ陸軍部ノ批准ヲ乞ヒ之ヲ公布ス

甲案ハ号

中華民國陸軍部設立〇〇製鉄公司ト日本大倉組トノ商定契約草案

一、中華民國陸軍部（以下陸軍部ト称ス）カ自ラ設立スル

〇〇製鉄公司資本金參千萬元ノ内拾分ノ四以内ノ無記名式株券ヲ日本大倉組（以下大倉組ト称ス）ニ売渡スモノトス但シ事業進展ノ程度ニヨリ陸軍部ハ期ヲ分テ募集額

ヲ規定シ定額ニ至ル迄陸續募集ス大倉組ハ其ノ割合ニ応シ期日迄ニ納入スヘシ将来資本増募ノ際モ亦是ニ準ス

大倉組ハ該製鉄公司章程及此後陸軍部批准ノ該公司弁事章程ヲ遵守スヘク其ノ得ル所ノ利益ハ他ノ株主ト同様トス

大倉組所得ノ無記名株券ハ譲渡等ノ事情ノ有無ヲ論セス該公司ハ只大倉組ヲ以テ此ノ無記名株券ノ代表ト認メ株券ヨリ發生スル一切ノ權利義務ハ大倉組ニ於テ完全ニ負担スルモノトス

二、該公司製鍊スル所ノ鋼鉄ハ中国政府ニ於テ優先購買スルモノトシ政府カ需要セサル場合ニハ他ニ売却スルコトヲ得但シ其ノ何人タルヲ問ハス最高市価ヲ以テ売却シ該公司ノ利益ヲ多カラシメン事ヲ期ス

三、陸軍部負担ノ〇〇製鉄公司記名株拾分ノ六即チ銀一千八百萬元鳳凰山鉄鉱公司資本銀五百萬元ハ若シ陸軍部募集額ニ不足ヲ生セル時ハ每期ノ不足額ハ大倉組ヨリ借款シ陸軍部ハ年利 分ノ割合ヲ以テ借款ノ日ヨリ起算シテ毎年一回利息ノ支払ヲ為スモノトス此ノ借款ハ陸軍部ニ於テ何時ニテモ償還スル事ヲ得利息ハ償還ノ日ヨリ計算ヲ止ム但シ三ヶ月前ニ陸軍部ヨリ大倉組ニ通知スルモノトス

四、大倉組ヨリ推薦セル顧問数名中ヨリ督弁ハ自由ニ一名ヲ選定シ若シ該選定備入ノ顧問ニシテ督弁不適当ト認ムル時ハ辭職セシメ別ニ選定スル事ヲ得該公司事業進行計畫ハ陸軍部ノ批准及株主代表總會ノ議決ニ從ツテ弁理ス其ノ執行ハ督弁カ重要ト認ムル時ハ坐弁ト顧問トヲシテ協商ノ上之ヲ定メシム但シ委員ト顧問ノ意見合ハサル時ハ督弁ノ意見ヲ以テ之ヲ定メ相争フ事ヲ得ス株主代表会

三、本公司記名式株券ハ中国人以外ノ者ニ売却又ハ譲渡スルヲ得ス

四、本公司所要ノ鉱石ハ鳳凰山一帶(周圍五十里以内)ノ鉱石ヲ以テ之ニ充テ他人ノ採掘スルヲ許サス

五、本公司ノ製出ニ係ル鉄鋼ハ政府ニ於テ優先購買スルモノトシ政府需要セサル時ハ他ニ売渡ス事ヲ得

六、本公司ハ陸軍部ヨリ督弁一名ヲ派シ事業經營ヲ監督セシメ督弁ハ坐弁二名ヲ派シ直接事業ノ遂行ヲ担任セシム

七、本公司弁事章程ハ督弁ヨリ陸軍部ニ請願シ批准ヲ得テ之ヲ遵守ス

八、本公司ハ毎年一回株主總會ヲ開キ事業成績及次年度經營方針ヲ報告ス

九、本公司株主代表ヲ二名ト定メ記名式無記名式株主中ヨリ各一名宛ヲ選舉シ左記事項ニ関スル事ヲ協議ス

但シ株主代表ノ任期ハ三年ト定メ満期再選ヲ得

一、公司事業進行計畫

二、營業報告及利益分配

三、督弁重要事項ト認ムルモノ

但シ上記三項ハ総テ商法慣習ニ準シテ弁理ス

八 大倉組ノ江蘇省秣陵関附近鉄山開発ニ関スル交渉一件

議ノ時ニ該顧問ヲ列席セシメ一切ノ報告ヲ為サシムルヲ得

五、該公司營業期間満期ノ際ハ無記名株券ハ陸軍部ヨリ無条件ニテ回収スルコトヲ得

六、凡テ従前鳳凰山一帶ノ鉄鉱ニ関セル内外商人一切ノ契約ハ是ヲ取消ス

(附屬書二)

乙案(河野対案)イ、ロ各号

乙案イ号

〇〇製鉄公司章程

政府ハ陸軍部ヲシテ設立セシムル製鉄公司章程ヲ左之通り規定ス

一、本公司ハ資本額ヲ銀四千万円トナシ毎株一千元四万株ト定ム陸軍部ヨリ株式公募ヲナシ応募額規定額ニ達セサル時ハ政府之ヲ補足ス但シ督弁ハ事業進行ノ程度ニヨリ資本額ヲ数回ニ分チテ払込マシムル事ヲ得将来増資セントスル場合モ前項規定ニ從ツテ弁理ス

二、本公司株券ハ分ツテ記名式無記名式ノ二種トス無記名式株券ハ拾分ノ四、五ヲ以テ限トス

十、本公司督弁ハ坐弁ニ命シ第九項ノ規定事項ヲ厳守セシム

十一、株主代表ハ本公司一切ノ帳簿ヲ監査スル事ヲ得

十二、株主代表會議ハ督弁ヲ以テ議長トナシ双方意見合ハサル事項ハ督弁加入シテ之ヲ決定ス

十三、本公司營業期間ハ参拾ヶ年ト定メ満期ニ至レハ陸軍部情勢ヲ斟酌シテ之ヲ継続セシムルヲ得

十四、本章程若シ改修ノ必要アリト認ムル時ハ株主代表會議ノ議決ヲ經テ陸軍部ノ批准ヲ乞ヒ之ヲ公布ス

乙案ロ号

中華民國陸軍部ト日本大倉鉱業株式会社ト商定契約草案

一、中華民國陸軍部(以下陸軍部ト称ス)カ自ラ設立スル

〇〇製鉄公司資本銀四千万円ノ内拾分ノ四、五ノ無記名株券ヲ日本大倉鉱業株式会社(以下大倉ト称ス)ニ売渡スモノトス但シ事業進展ノ程度ニヨリ督弁ヨリ資本額ヲ数回ニ分チテ払込ム可キ通知ヲ發ス大倉ハ其ノ割合ニ応シ期日迄ニ納付ス可シ資本増募ノ際モ亦之ニ準ス

八 大倉組ノ江蘇省株陵関附近鉄山開発ニ関スル交渉一件

五二一

五二八

二、大倉ハ該製鉄公司章程及今後陸軍部批准ノ該公司弁事章程ヲ遵守スヘシ

三、大倉所得ノ無記名株券ハ譲渡等ノ事情ノ有無ヲ論セス該公司ハ只大倉ヲ以テ無記名株券ノ代表ト認メ株券ヨリ発生スル一切ノ権利義務ハ大倉ニ於テ完全ニ負担スルモノトス

四、陸軍部負担ノ資本募集額ニ不足ヲ生スル場合ニハ大倉ヨリ借款ヲナス大倉ノ承認ヲ經サレハ他人ヨリ借款ヲ為ス事ヲ得ス

五、大倉ハ坐弁一人及株主代表者一人ヲ推薦スルヲ得若シ督弁不適任ト認ムル時ハ双方ノ協議ニヨリ之ヲ改薦スル事ヲ得其ノ職責ハ製鉄公司章程ニ照シテ処理ス別ニ外人ヲ招聘スル時ハ大倉ヨリ之ヲ推薦ス

六、本契約継続年限ハ製鉄公司章程ニ従フ

七、本契約訂結該製鉄公司成立ノ後ハ従前大倉ト鳳凰山トノ一切ノ関係ハ之ヲ取消ス

五二一 六月二十八日 在英國珍田大使ヨリ後藤外務大臣宛(電報)

日本シンヂケートノ鳳凰山鉄鉱経営権獲得ノ

ニ関シテハ何等ノ協議ヲ受ケルコトナシト答弁セリ

五二二 七月一日 関東都督府陸軍参謀部ヨリ幣原外務次官宛

鳳凰鉄山及中国ノ借款政策ニ関スル京津タイムスノ記事訳報ノ件

関東参謀第四三三号 (七月六日接受)

大正七年一月一日 関東都督府陸軍参謀部

新聞報(支那)第二号

支那経済

三、鳳凰鉄山日本人ノ手ニ帰ス

四、借款借款又借款

三、鳳凰鉄山日本人ノ手ニ帰ス (六月二十四日 京津タイムス)

今ヨリ約一箇年前支那政府カ日本ニ譲与セントシテ非常ナル物議ヲ惹起シ遂ニ沙汰止トナリタル如ク思ハレタル鳳凰鉄山問題ハ其ノ後依然日本側ハ大倉、三井、支那側ハ交通派ノ一領袖ニシテ隴海鉄道支配人ナル「ス・シャオ・ツォン」氏トノ間ニ秘密ニ交渉ヲ進メラレ遂ニ過日南京ニ於テ李江蘇督軍ハ陸軍部ヲ代表シテ協約ニ調印シ近々閣議ニ附

八 大倉組ノ江蘇省株陵関附近鉄山開発ニ関スル交渉一件

報道ニ関スル英國議會ノ質疑応答報告ノ件 第四九四号 (六月三十日接受)

南京附近ノ鳳凰山鉄鉱経営権某日本 Syndicate ノ手ニ獲得サレタリトノ上海通信六月廿五日ノ「タイムス」紙上ニ掲載セラレタルカ某議員ヨリ (1) 右事実ノ有無 (2) 揚子江流域ハ英國ノ企業ノ為 Reserve サル居ルニ非スヤ (3) 然リトセハ英國大使又ハ英國政府ハ本件 Concession 請求及許容ニ先タチ予メ協議ヲ受ケタリヤ否ヤトノ質問ニ対シ外務次官ハ六月廿七日書面ヲ以テ質問(1)及ヒ(2)ニ関シテハ英國政府ハ本件日支間ノ商議進行中ナリトコトハ承知シ居ルモ右商議カ既ニ成立シタリトノ公報ニ接セス又本件鉄鉱ハ揚子江流域内ニ在リ該流域ハ英國臣民ニ於テ其ノ提起セル実業上ノ利権獲得ノ申請ニ対シテハ支那官憲ヨリ Favourable consideration ヲ受クルノ優先的 Claim ヲ有ストノ意味ニ於テハ英國政府カ從來ソノ支那ニ於ケル特殊利益ノ範圍ト認メ来レル所ナリサリナカラ英國政府ハ支那ニ於ケル利益範圍ニ対スル主張 (Claim) ナルモノハ英國ノ分ニテモ將タ外国ノ分ニテモ孰レモ、カノ門戸開放主義ト抵触スル程度迄ハ推シ進ムヘキモノニ非ストノ意見ヲ抱持シ又質問(3)

スルコトナレリ、元来同鉄山ハ農商部ノ管理セシモノニテ同部ハ國際鉱業会社ヲ組織シテ之ヲ経営セシムル計画ナリシカ日本人及親日派ハ之ヲ喜ハスシテ最近日支軍事協定ノ結果トシテ日支兩國ノ兵器製造ニ必要ナリト称シ同鉄山ヲ陸軍部ノ管理ニ移サシメタル後新ニ一千万円ヲ出シテ其ノ採掘権ヲ獲得セリ、而シテ鳳凰連山ノ一ナル茂嶺関ヲ採掘スル為ニ北京武人派、江蘇有力家及日本人ノ合同ニナル一会社ヲ設立シ採掘シタル鉄鉱ハ日本人ノ監督スル鉱山附近ノ製鉄所ニテ用フルモノヲ除キ他ハ悉ク日本各地ノ製鉄所ニ供給セラルルナリ、支那側ハ日本以外ノ國ニ於テ資金ヲ得ルコトノ不可能ナルコトヲ唱ヘ居レト数ケ月前米國某「シンジケート」カ採掘シタル鉄ヲ悉ク支那ニ供給スル条件ニテ之ヲ採掘スルコトヲ交渉シタレト日本ヲ怖レテ遂ニ之ニ応セサリシニアラスヤ今ヤ支那ノ鉄山ノ殆ト全部並新式製鉄所ハ悉ク日本ノ管理スル所トナリタレハ将来支那ハ鉄ノ不足ニ苦シマン

四、借款借款又借款

六月二十五日ノ閣議ニ於テ曹財政部総長ハ対某國借款交渉顛末ノ説明ヲ為シ多數ノ賛成ヲ得テ直ニ調印スルコトニ決

(六月二十七日 京津タイムス)

五二二

五二九

セラレタリ此ノ借款中ニハ前ニ報道シタル南京附近ノ鳳凰鉄山借款モ含マレ居ルヘシ過去数ヶ月間ニ閣議ニ上リタル幾多ノ協約契約ヨリ推セハ閣員全部ハ是等ノ契約ニ關係ヲ有セサルモノナシ財界ノ風説ニ依レハ七年度内國債券ヲ担保トシテ借款契約日本人トノ間ニ成立シ多分二十七日調印セラルルナラント此ノ事ハ当事者ニ依リ極秘ヲ守ラルレト支那市場ニ於テ失敗ニ終リタル該内國債券カ如何ナル条件ノ下ニ新借款ノ担保ト為サレ能フカハ万人ノ理解ニ苦シム所ナレト兎ニ角担保ニ用ヒラルコトハ確實ナル由聞キ及ヘリ

本書發送先

関東都督府民政長官 同警務総長 関東憲兵隊長 参謀次長 陸軍次官 外務次官 朝鮮総督府武官 朝鮮駐劄軍参謀長 同憲兵隊司令官 支那公使館附武官 坂西少将 支那駐屯軍司令官 青島守備軍参謀長 中支那派遣隊司令官 上海駐在武官 台湾総督府陸軍参謀長 独立守備隊司令官 第七師団参謀長 南満州鉄道株式会社理事長



鳳凰山鉄鉱ニ関シテハ前期臨時議會ニ於テ本省議會ノ推定セル代表者カ民間株主ノ代表者(秣陵公司側)ト協議進行ヲ図ルヘキ旨ヲ以テ其採鉱許可証ヲ下附セラレンコトヲ督軍省長ヲ經テ中央ニ願出(本年一月十日付南領機密第一号御参照)置キタルニ拘ラス爾來数月未タニ其許可証ノ下附ヲ見サルノミナラス頃日来各新聞紙ハ中央當局ハ此鉱ヲ以テ或ハ借款ノ担保ニ供セントスト伝ヘ或ハ日支合弁事業トナサント報ス事實遽ニ信スヘカラスト雖モ然モ全然無根ナリトハ断シ難シ抑鉄鉱ハ国家ノ命脈ニ關係スル所ニシテ当省ハ該鉱ノ所在地ナレハ万一新聞ノ報スルカ如キコトアランカ危害ノ及フトコロ真ニ寒心スヘシ故ニ此際再ヒ本会ノ主張ヲ農商部ニ電報スルト共ニ督軍省長ニ對シテモ原案ノ目的貫徹ノ尽力ヲ請フコトニ致シ度シ

トノ緊急動議ヲ提出シタル処同省議會ハ同月二十八日付ヲ以テ督軍省長ニ對シ右原案カ大多数ニテ議決セラレタル旨ヲ具シ可然詮議ノ上農商部ニ速ニ該許可証下附ヲ電申セラレ度キ次第ヲ照会シ之ニ對シ督軍省長ヨリハ七月五日付ヲ以テ省議會申出ノ通り取計ヒ置ケル旨ノ回答アリタル趣

五二三 七月十三日 在南京清野事務代理ヨリ 後藤外務大臣宛

鳳凰山鉄鉱ノ外国人ニ依リ探掘ヲ排除セントスル江蘇省議會ノ動キニ付報告ノ件

南領機密第三〇号 (七月二十三日接受)

大正七年七月十三日

在南京

領事館事務代理 清野長太郎(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

鳳凰山鉄鉱問題ニ関スル件

本件ニ関シ當省々議會ニ於テ貯蓄債券ノ發行ヲ以テ其經營資金ヲ得ヘシトノ發案ニ對シ六月一日審査会ニ附スヘキ事ヲ決議シタル次第並ニ上海ノ外字新聞及漢字新聞ハ兩國政府ノ間ニ於テ本件鉄鉱ヲ合弁事業トナスヘキ交渉進捗中ナルコトヲ報シタル次第ハ之カ為メニ当地方ニ於ケル該鉄鉱從來ノ關係者等ハ何等カノ反對運動ニ出ツヘシトノ卑見ヲ添ヘ之ニ関スル小官ノ心得方御垂示稟請旁客月二十七日付南領機密第二六号拙信ヲ以テ報告ニ及ヒ置候次第モ有之候処果セル哉六月二十五日右省議會ニ於テハ議員朱紹文ナル者陳大猷外八名ノ賛成ヲ得テ

「省議會彙刊」ニ記載有之候

當省々議會ニ於ケル成行大要右ノ通りニ有之候処本件鉄鉱カ漢字新聞ノ伝フルカ如ク真ニ英國議會ノ問題トモナリ又果シテ借款ノ担保ニ提供セラレタルノ事實アルニ於テハ秣陵公司關係ノ当地商務會側ニ於テモ相当反對ノ運動ニ出ツヘク且又七月五日南領機密第二七号拙信ヲ以テ報告ニ及ヒ置候如ク李督軍カ日本カ此際支那ノ借款ニ応スルコトヲ喜ハサルノ意ヲ洩ラシタル次第モ有之候ニ付或ハ当地官憲ニ於テ暗ニ本件反對運動ノ助成ヲ務ムル事ナキヲモ保シ難キ儀ト思考致サレ候此段報告申進候 敬具

本信寫送付先北京公使

五二四 七月二十四日 在南京清野事務代理ヨリ 後藤外務大臣宛

李純ノ南北妥協鳳凰山鉄鉱等ニ関スル多賀大

佐ヘノ談話要領報告ノ件

附屬書 右李督軍談話要領

南領機密第三三三号

(八月一日接受)

大正七年七月二十四日

在南京

領事館事務代理 清野長太郎(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

本月二十三日当地督軍署顧問多賀大佐カ聴取シタル李督軍ノ時局談ニ関シ別紙ノ通り陸軍側ニ通報致シ置キタル旨ヲ以テ同大佐ヨリ其内示ヲ受ケ候ニ付右写茲ニ供貴覽候

敬具

本信写送附先 在支林公使 在上海有吉総領事

(附屬書)

江蘇督軍李純ノ督軍署顧問多賀大佐ニ対スル談話要領

七月二十三日李督軍カ南北時局及鳳凰山鉄鉞問題及浦口經營并ニ留日学生救国団ニ付テ語リシ要旨左ノ如シ

一、南北時局ニ関スル件

南方側ニ於テモ妥協ノ氣運ハ昂マリツツアリ主戦ヲ主張スルハ倪ト徐樹錚ト之ニ附随セル張懷芝ノミトナリ
吳佩孚ハ復タ各所ニ通電ヲ発シテ極力妥協ノ必要ヲ説キ居レリ随テ自然ノ情況ハ近ク妥協ノ端ヲ啓クニ至ラント觀察シ居レリ岑春煊ハ已ニ広西ニ到リシヲ以テ陸榮廷ト打合ハスニ便ナラン殊ニ有望ナルハ最近陸榮廷カ妥協ヲ目的トシテ梁士詒周自齊及朱啓鈴ノ三人ニ宛テタル電報ニシテ妥協

政府トシテ苦痛ナルニハ相違ナカラン蓋シ政府カ広東庄迫最後ノ目的ハ該省ヲ全然其掌裡ニ握リテ将来南方派ノ根拠タルヲ防カントスルニ在レハナリ但目下龍濟光ノ根拠ハ南軍ニ覆サレ居ルニ処ナク此假ニテハ南下スル能ハサル情況ナレハ政府モ之ニハ考慮スル所アルヘシ要スルニ自然ノ情況カ妥協ニ傾キ来リシハ事實ナレハ予モ此際之ヲ妥協ノ好機會トシテ重要方面ニ連絡シツツ裏面ノ調停ニ着手シツツアリ

二、鳳凰山鉄鉞問題ニ付テ

鳳凰山ノ隣地静龍山ノ鉄ハ頗ル豊量且其質純良ニシテ陶某ナルモノ已ニ採掘ヲ出願セルカ不日許可セラルヘシ該陶某ハ数多ノ資本家ト合同シテ開鉞シ別ニ張謇ハ四五百万円ヲ以テ熔炉ヲ買入レ鉄工所ヲ設クルコトニ概定セリ但熔炉ノ購入ニハ少カラス時日ヲ要スルヲ以テ急速ニ開設スルコトハ不可能ナルヘシ而シテ隣地ノ鳳凰山ハ政府対地方ノ処置不妥ナルヲ以テ此方ノ決定ハ恐ク容易ナラサルヘシ予ノ意見トシテハ鉞産ノ採掘權ヲ外人ニ許スハ即チ主權ヲ讓ルモノニシテ国家ノ不利ナルノミナラス地方人士カ反對運動ヲ起スハ自然ノ勢ナリ北方ナル森林借款ニ対スル省民ノ反對

条件ヲ提議セシモノト見ルヲ得ヘシ該提議ハ八ヶ条ヨリ成リ護法ニ付テハ特ニ言及スル所ナシ即チ左ノ如シ

一、国会ニ付テハ各省多数ノ意見ニ從テ定ムルコト

二、予ヲ兩広巡閱使ニ擬スルモノアルモ予ハ絶対ニ望ム所アラス

三、善後策ノ為メニ政府ハ必要ノ費用ヲ支出スルコト

四、湖南ハ撤兵後譚延闓ヲシテ処理セシムルコト

五、広西督軍ハ譚浩明ヲ以テ任スルコト

六、広東督軍ハ莫擎宇ヲ以テ任シ龍濟光ハ絶対ニ広東ヨリ排斥スルコト

七、撤兵後軍隊ノ整頓ヲ行フニ要スル費用ハ政府ヨリ支出シ軍器ノ補充必要ナルモノハ政府ヨリ補充スルコト

八、雲貴四川ニ付テハ予ハ關係セス

由是觀之根本タル国会問題ニ於テ調和ノ余裕ヲ生シ妥協ハ至難ニアラス但政府カ総テノ費用ヲ負担スルコトハ或ハ困難ナランモ若シ広東討伐ヲ実行スレハ毎月二千万円ヲ費スヘク終局迄ニハ一億以上ノ支出ヲ為シテ且成果アルヤ否疑ハシキヲ思ヘハ寧ロ速ニ必要ノ費用ヲ支出スルノ財政上有利ナルニ若カス又龍濟光ヲ広東ヨリ遠ザケルコトハ現在ノ

ハ此好適例ナリ又英米等ニ鳳凰山問題ニ付テ抗議ノ口実ヲ与フルハ主權ノ所在ニ異議アルナリ若シ支那ノ主權サヘ侵ササレハ他外国ハ容喙スル口実ナカルヘシ予ハ鳳凰山ノ主權ハ我政府ニ存シ其鉞物購買ヲ外人ニ許スヲ最モ公平ナル処置ト思考シ此意見ヲ政府ヘ具申セリ

小官ハ之ニ付テ段総理及曹汝霖ノ意向如何ヲ尋ネシニ対シ李曰ク

曹汝霖ハ唯タ借款サヘ成立スレハ足レリトシ借款金ヲ得ルコトノミヲ目的トスル故鉞山カ如何様ニ処置セラルモ関知スル所ナシ又段総理ハ予ト根本意見ヲ同フスルモ現在ノ立場ニ於テ如何様ニシテモ款費ヲ手ニ入レサレハ立チ行カサル有様ナルヲ以テ是亦自然金ヲ手ニ入ルルコトノミ腐心シツツアルナリ結局如何ニ成リ行クカハ断言シ難シ

三、浦口經營ニ付テ

予ハ馮前督軍ヨリ之ヲ引継キ自己ノ責任トシテ經營ニ付テ歩ヲ進メントシツツアルモ仏国トノ關係上資金供給ノ途ナク毎月五千円ツツノ經營事務ノ費用ヲ徒費スルノミナリ予ハ該地ヲ商埠トスルコトニ付テノ計画ハ略定シ置ケリ即旧定商埠地ヲ商業地トシ更ニ一方ニ区域ヲ擴張シ該地ヲ倉

庫敷地ニ預定セリ兎ニ角歐洲戦争終局後仏国力残金ヲ支出スルヲ待テ経営スルヨリ外ニ良法ナシ

四、留日学生救国団ニ付テ

留日学生ノ挙動カ頗ル遺憾ナリトノ意ヲ語り且曰ク彼等ハ煽動サレ煽動シツアルモ其真意ハ若干ノ者カ衣食ノ道ヲ得ンカ為メノ手段ト見ラル此ノ如キ者カ政争ノ仲間ニ入リテ所謂乱党分子トナルモノナリ日本ヘハ留学容易ナルヲ以テ留学生中ニハ多クノ不良分子ヲモ含有シ居レリ日本ハ将来此等ニ対シ何ントカ適當ナル処置ヲ講セラレヌヤトテ痛ク救国団ノ行為ヲ遺憾トシ居ル如ク認メラル

五二五 十月二十日 大倉組門野重九郎ヨリ
内田外務大臣宛

大倉ノ株陵鉄山採掘権及製鉄事業計画ノ願末

報告ノ件

附 属 書 支那南京附近株陵鉄山及製鉄事業ニ関スル願末

スル願末

附 記 一 大正八年一月十五日付大倉喜七郎ヨリ

埴原政務局長宛書翰

株陵鉄山ニ関スル大倉組ト中国側トノ交渉

ス

大正五年四月支那政府農商部ヨリ許可第九八号ヲ以テ正式採掘ノ許可ヲ受ケタリ而シテ政府ハ特ニ張寿齡氏ヲ督辦ニ任命シ華寧公司ヲ監督セシムル事トナリタリ依テ本公司ヲ官督商辦華寧鉄鉱有限公司ト改ム

同年五月当該地方管轄庁ナル江蘇省財政庁庁長兼全省鉱務事宜胡氏ヨリ正式ニ登録済ノ通知アリシヲ以テ華寧公司ハ茲ニ正式成立手續ヲ完成セリ依テ事業着手シテ鉱山附近ノ土地買収ヲナセリ大倉ハ単ニ裏面ニ於テ華寧公司資本半額出資者タルニ過キス故ニ表面支那政府ニ対シテ弊方ノ權利ヲ公然認メサセ置ク手段トシテ公司トノ間ニ鉱石売買ノ契約ヲ結ヘリ其条件ノ要点ハ左ノ如シ

一 採掘鉱石全部ヲ大倉組ニテ買受ケル事

一期限二十箇年

一支那政府ニ於テ必要ノ時ハ十分ノ五ヲ政府ニ買上ゲル

事

大倉ハ支那政府ノ好意ニ報ユル為メ支那政府中国、交通兩銀行救済資金トシテ四百万円迄ノ借款ニ応スル事トシ買鉱契約締結ト同時ニ一百万円ヲ財政部ニ渡シ其余ハ請求ニ応

八 大倉組ノ江蘇省株陵関附近鉄山開発ニ関スル交渉一件

経過報告ノ件

二 大正十年六月二十一日付大倉組在北京出張所ヨリ在北京日本公使館宛書翰
鳳凰山関係借款ニ関スル大倉組、中国財政部間取極ニ付報告ノ件

株陵鉄山ニ関シ御願

大正四年來敵方ト支那政府トノ間ニ懸案中ノ株陵鉄山ニ関シテハ是レ迄帝國政府ヨリ多大ノ御援助ヲ蒙リ居リ候モ今以テ落着ニ到リ兼ネ甚タ当惑罷在候ニ就テハ別紙願末書相認メ御高覧ニ供シ候何分ノ御沙汰賜ハリ度此段奉願候也

大正七年十月二十日

大倉組

門野重九郎

外務大臣子爵 内田康哉殿

(附屬書)

支那南京附近株陵鉄山及製鉄事業ニ関スル願末

大倉組ハ大正四年秋ヨリ同五年春ノ間ニ梁士詒、周自齊氏等ノ後援ニ依リ隴海鐵路督辦施肇曾氏及江蘇出身ノ有志ト図リ商辦華寧公司ヲ組織シ同公司名義ニテ鉄鉱採掘ヲ出願

シ期ヲ分チ交附スル事ニ契約シ置ケリ

然ルニ大正五年六月六日袁世凱逝去後支那政府ハ表面親日ヲ表示シ乍ラ一時裏面排日の風潮トナリ不法ニモ時ノ農商總長谷鐘秀氏ハ華寧公司ノ採掘権ヲ取消シタリ弊方ハ直チニ外務省及駐支林公使ニ稟申シタルヲ以テ林公使ハ外務省ノ訓電ノ許ニ熱誠ナル抗議ヲ支那政府ニ提出セラレ其結果支那政府ハ弊方ノ權利ヲ認メ曹汝霖、徐樹錚ノ両氏ヲ協商委員トシ弊方北京出張代表者河野久太郎ト協議シ種々折衝ノ末弊方ト支那政府トノ間ニ株陵鉄鉱ヲ用ヒ製鉄所ヲ起スヘキ協議纏マリ調印ノ為メ大倉喜八郎ハ大正六年十二月北京ニ出張セリ而ルニ其到着ノ前日段内閣ノ辭任トナリ嚴寒長途ノ旅行モ其目的ヲ達セス空シク帰朝スル事トナリタリ段内閣総辭職後ノ支那政府ハ臨時内閣ニテ内政ハ勿論外国トノ交渉事件ノ如キモ殆ト休止ノ有様ナリシヲ以テ弊方ハ暫ク政府ノ安定ヲ待ツ事トセリ

越エテ当春段内閣再興セラレ再ヒ前協議案ニ依リ多少ノ修正ヲ加ヘテ双方協定案ヲ作成シ我外務省及林公使へ案文提出シ置ケリ

斯ク交渉進行ノ最中ナリシ際計ラスモ我政府ノ内命ナリト

称シ西原某ナル者駐日章支那公使及財政総長曹汝霖ト製鉄借款ノ交渉ヲ開始セリ

弊方カ数年ノ苦心ト多大ノ資ヲ投シ得タル既得ノ権利ヲ無視シ秣陵鉄山ヲ支那ニ单独經營ヲ許シ且多大ノ資ヲ貸付ケントスル如キ挙ニ出テタルヲ以テ弊方ハ其理由ヲ解スルニ苦シミ林公使及外務省ヘ伺ヒモ秣陵鉄山ハ大倉ノ關係ヲ離レテ解決スヘキモノニ非ストノ御意見ナル事ヲ確メタリ

又一方大倉喜八郎ハ親シク寺内首相ニ面会シテ如上秣陵鉄山ニ関シテ大倉カ数年ニ涉リ支那政府ト交渉ノ顛末ヲ陳述シ現ニ該政府ト契約進行中ニ付西原某ヲシテ指ヲ染メシメサル様御下命願ヒタシト具狀セシニ寺内首相曰ク日本政府ノスル所ハ支那全体ノ鉄鉱ニ対シテナルカ故ニ秣陵鉄山ニ関シテハ大倉ハ是迄通り進行ニ勉メテ聊カ仔細ナシト言明セラレタリ

然ルニ何ソ計ラン駐日章支那公使ヨリ支那政府ニ向ケタル電報ニ「大倉ト支那政府トノ關係ハ日本政府ニテ処置スル故西原案ニ調印セヨトノ日本政府ノ注意ヲ受ケタリ」トアリテ駐支日本公使ノ態度ト一致ヲ欠クノ故ニ支那政府モ其

リ度偏ニ奉願上候

敬具

(別紙)

秣陵鉄山日支共同經營ニ関スル南京側ノ申込並ニ右協議進行概要

大正八年一月十日記

現内閣ノ御後援ヲ得再ヒ交渉開始仕候江蘇省秣陵鉄山日支合弁經營交渉開始ハ大正七年拾月二十八日北京弊社員ヨリ在北京南京地方有志意向トシテ從來該鉄山ニ関シテハ大倉側ノ華寧公司設立ニ対シ南京地方有志ハ秣陵公司ヲ組織シ其鉱權ヲ争ヒ来リタルモ中国政府ニテ製鉄借款ヲ起債シ官營サルルニ於テハ其利害關係大倉側ト一致シ双方共ニ得ル所ナキニ立至ルヘキヲ以テ此際双方從來ノ行懸リヲ一擲シ提携シテ中国政府ニ交渉シ合辦經營セントノ妥協意見申出有之先方ノ希望案項ハ大体一昨年晩春金鼎金環氏等ノ申出テ条件ト大差ナキモノニ有之先方ハ李純、馮国璋両氏ノ贊同ヲ得テ直ニ運動ニ着手仕度南北平和交渉ニ際シ李純、馮国璋両氏ノ北京政府ニ対シ重キヲナス現時ヲ以テ最適時期トナス就テハ当方ノ贊同ヲ得次第運動ヲ開始スヘシトノ申込ニ基キ再開仕候モノニ有之候南京秣陵公司ハ弊方關係華

八 大倉組ノ江蘇省秣陵關附近鉄山開鑿ニ関スル交渉一件

五二五

五三七

処置ニ窮セリトノ事ヲ聞キタリ依テ喜八郎ハ勝田蔵相ニ面会セシニ秣陵鉄山事件ハ自分ヨリ答ヘ難シ寺内首相ニ話シ呉レトテ答弁ヲ避ケラレタリ其後数回寺内首相ニ面会ヲ求メタレトモ終ニ面会スルヲ得ス

此間門野重九郎、河野久太郎兩名ハ寺内首相並ニ勝田蔵相ニ再三具陳セル結果決シテ弊方ヲ無視セス協議ノ上決行スヘキニ付数日ヲ待ツヘシトノ御下命ヲ受ケタルモ遂ニ何等ノ御指令ニ接セスシテ内閣更迭トナリタリ

(附記一)

大正八年一月十五日大倉鉱業株式会社大倉喜七郎ヨリ埴原政務局長宛書翰

秣陵鉄山ニ関スル大倉組ト中国側トノ交渉経過報告ノ件

大正八年一月十五日

大倉喜七郎

外務省

埴原政務局長殿

拝啓

一、秣陵鉄山問題之件

本件ニ関シテハ毎々一方ナラサル御配慮ヲ蒙リ奉深謝候其後ノ経過大要別紙御報告申上候今後共何分ノ御高配賜ハ

寧公司ニ反对シテ南京地方商務總會省議會議員連ニヨリ設立計画セラレタルモノニテ当初ヨリ弊社ニハ全然反对ノ態度ヲ採リタルモノニ有之昨晩春一度提携ノ議起リ交渉仕候得共當時先方ハ李純、馮国璋等ノ如キ有力者ヲ動カスノ力ナキ団体ニ有之候ト一面弊社対北京政府交渉進行中ニテ該交渉ハ其派中絶仕リ主腦者トハ常ニ接近ヲ保チ来リ候得共頑迷ナル一派ハ兎角弊方対北京交渉進行ノ都度何等カノ形式ニヨリ反对ノ態度ヲ採リ来リ候次第ニ候然ルニ昨年西原氏ノ製鉄借款ノ議起リタルヨリ南京側団体ハ其結合稍々強大ヲ加ヘ李純督軍亦其後援ヲナスノ模様有之南方政客ト相通シ反对ノ氣勢ヲ挙ケ候事ハ御承知ノ通りニ有之候右西原氏計画ハ消滅仕候得共南京側ハ斯カル借款ニヨリ地方利権ノ全然他者手中ニ帰センコトヲ恐レ此際從來ノ紛争關係ヲ一擲シテ南京側ヨリ弊社ニ妥協提携申込ミ来リ候次第ニテ弊社トシテハ南京地方有志ト融和提携ノ好機會ト存候得共南京側ノ妥協ノ誠意如何並ニ同団体カ馮国璋李純両氏ノ如キ同地方有志者ヲ始メ中央政府ヲ動カシ得ル有力ナル團結ナルヤヲ確メタル上進行候事万全ノ策ト存候儘既ニ貴省ヨリ製鉄借款案消滅セシメラレ弊社ニ於テ秣陵鉄山經營ヲ纏

ムルコトニ御援助被下候旨御懇諭ニ接シ居候モ南京側ノ妥協促進ノ本旨ハ日本製鉄借款ヲ危惧シタルニ因ルモノニ有之候間借款案ノ消滅ヲ先方ニ暫時秘シ充分有力ナル團結ヲナサシメ妥協ヲ進ムル事ニ仕度北京派員ヲシテ各方面ヨリ探查スルト共ニ直接先方当事者ヲ勸説一致團結ヲ促サシメ候処南京側ノ妥協意見ニハ馮国璋氏ヲ始メ農商総長田文烈氏モ賛意ヲ表シ居リ当方意向確定ノ上在北京南京側代表者南京ニ赴キ地方人ヲ纏ムル考ニテ先方合辦妥協意見ハ

- 一、鉄山ハ表面秣陵公司ノ自弁トスルコト
- 但内部ニ於テ公司株式ノ半分以上ヲ無記名或ハ支那人名義ニテ大倉買収スルコト
- 二、鉄山技師ハ大倉ヨリ推薦
- 三、製鉄所出来ル迄鉱石全部大倉ニ売却ノコト、価格ハ隨時協定
- 四、製鉄所ヲ大倉ト秣陵公司トノ合辦トス大倉ノ持株ハ半数ヲ越エヌコト
- 五、製鉄所総理ハ支那側ヨリ其他ノ人員ハ日本支那各半数
- 六、売鉱売鉄及製鉄所組織ハ支那法律ニ依ルコト
- トノ意見ナル旨申越シ候弊社ヨリハ更ニ

右交渉進行為致候

折返シ弊社北京派員ヨリ在北京南京側ハ当方意見ヲ容レ呉抜其氏ヲ代表者トシテ河間ニ帰郷中ノ馮国璋氏ヲ訪ハシメ秣陵公司發起人総代タルノ承認ヲ得タル上南京ニ赴クコトニ可致旨申来リ候間大体ニ於テ同意ノ旨申送り同時ニ秣陵鉄山区域ハ秣陵関ヲ中心トシテ二拾英里ノ範圍トスル事ヲ契約中ニ含マセ置ク事ハ附近同様企業ノ競争ヲ避クル趣意ニ有之弊社本溪湖合辦契約中ニモ百清里ヲ限リタル例モ有之候間右申送り候次第ニ候其後呉抜其氏馮国璋氏ヨリ南京有力者ニ対スル書面ヲ得テ帰京直ニ弊社員ト共ニ南京ニ赴キ着々取纏メ地方有力者タル南京商務總會蘇總理地方公会仇会長ヨリ秣陵公司ニ関スル南京側ノ代表トシテ呉氏ニ全権ヲ委スルニ付キテハ馮氏自ラ総代表トシテ一切ノ協議決定ヲ願フ旨ノ書面ヲ持シ更ニ馮国璋氏ヲ河間ニ訪ヒ十二月中旬ニ至リ馮国璋氏秣陵公司ノ総代表者タルヲ承諾仕候間秣陵公司総代表馮国璋氏ト弊社派員ト秣陵鉄山並ニ製鉄所設立ニツキ仮契約ノ調印ヲ終リ候以上ノ順路ヲ踏ミ漸ク南京側ト提携稍々具体的ニ成立候ニ就テハ愈々外交ノ御後援ヲ得テ民国政府ノ許可ヲ得ル交渉開始仕度以上経過御報告

- 一、鉄山ハ表面秣陵公司自弁トシテ公司株半数以上ヲ無記名トシ半数ハ必ス大倉ニテ引受ケルコト
- 二、鉱山技師ハ大倉ヨリ推薦スルコト
- 三、製鉄所出来ル迄鉱石全部大倉ニ売却ノコト価格ハ隨時協定
- 四、製鉄所ヲ大倉ト秣陵公司ト共同ニテ設立シ大倉ノ持株ハ半数タルコト
- 五、製鉄所総理ハ支那側ヨリ選挙シ協理ヲ大倉ヨリ出シ其他ノ重役ハ日支各半数ヲ挙クルコト
- 六、秣陵公司及製鉄所ハ支那法律ニ依ル事
- 七、支那側株金ハ大倉ニテ株券ヲ担保トシテ立替出資スルコト
- 八、本契約ニ明記セサルコトハ事業ノ利益ヲ主意トシテ双方協議ノ上決スル事
- 九、右契約ハ農商部総長及南京地方長官ノ承認ヲ受ケルコト

以上ノ主意ニテ契約進行スヘキ旨申送り先方ノ希望ヲ充分容ルル一方南京側ヲシテ農商部総長並ニ江蘇督軍ノ同意ヲ得ルコトノ条件ヲ附シ南京側ニ誠意ヲ表サシムル様為致度

ヲ兼テ御後援御願申上候弊社在北京派員ヨリモ以上経過帝國公使館ニ御報告申上候筈ニ有之候何分共諸事御指導御高配方御指令相願度奉懇願候

尚対民国政府トノ交渉進行上弊社対華寧關係一切ヲ取消言明ヲナスコト這回交渉進行上便宜ナル旨派員ヨリ申越シ候得共御承知ノ通り弊社対華寧公司關係ハ秣陵鉄山ニ関スル単ニ弊社ノ既得利權ニ止マラス日本トシテ秣陵鉄山ニ対スル既得優先權ノ根本義ニ有之本關係ヲ分離シテハ将来該鉱山ニ関スル抗議ノ立脚地ヲ失フ事ニ相成候間仮令許可督促ノ手段トシテモ輕々ニ其取消ヲ声明スヘキモノニ無之秣陵公司トノ提携一切ノ条項ヲ愈々民国政府ニテ承認許可ヲ与ヘ当方ノ權利ノ形式内容ヲ充分確メタル上茲ニ初メテ弊社対華寧關係並ニ鉱石代金前渡シ金百万円等ニツキ双方了解解決シ取消スヘキモノニ有之候旨注意ヲ申送り置候御了承被下度候

本件ニ関シ弊社対在北京弊社派員間往復電写御参考迄ニ相添ヘ申候

先ハ右御報告迄

敬具

註 添附ノ大倉鉱業株式会社本社対在北京同社派員間往復電写

八 大倉組ノ江蘇省秣陵関附近鉄山開発ニ関スル交渉一件
ヲ省略ス

(附記二)

大正十年六月二十一日合名会社大倉組北京出張所ヨリ在北
京日本公使館宛書翰享
鳳凰山関係借款ニ関スル大倉組、中国財政部間取極ニ付報
告ノ件

拝啓

鳳凰山関係借款ニ付過般来財政部ト交渉中ノ処漸ク取極
相付キ候ニ付別紙其経過大略及関係書類相添ヘ御報告致
候也

大正十年六月二十一日 合名会社大倉組 北京出張所
北京
公使館御中

註 本号ハ大倉組東京本社ヨリ外務省ニ提出セラレタルモノナ
リ

(別紙)

鳳凰山関係借款ヲ財政部庫券ニ書替ヘノ件

大正五年六月十二日南京鳳凰山鉄鉞関係ニテ(別紙関係書
類写御参照)弊社ヨリ同鉞経営者タル華寧公司ニ対シ日金
一百万円ヲ貸与シ該公司ハ直チニ中国交通兩銀行ニ供托シ
財政部ニ融通シ置ケリ、然ルニ其後一回ノ利息支払ヲモ受

ケス利息累計既ニ金四十余万ノ巨額ニ達セシヲ以テ大正九
年十月中元利計算表ヲ作成シ中交兩行ヲ經テ財政部ニ元利
金支払方請求セシモ財政部ハ右ハ当社ヨリ直接ニ請求セラ
ルヘキ性質ノモノニアラストシ是レヲ不理ノ儘ニ打過ギ来
リシカ本年三月ニ至リ更ニ當時ノ財政総長タリシ周自齊氏
ト熟議シタル上財政部ヨリ華寧関係者ト交渉ノ結果改メテ
当社ト直接交渉ヲ開クコトト相成爾来磋商數回漸ク財政部
ヨリ返還スヘキコトノ承認ヲ得タリ、但シ財庫窮乏ノ際ナ
レハ大正十年四月二十日迄ノ元利合計額ヲ元金トシ同日ヨ
リ向フ四ヶ年半ノ年賦ニテ分期償還スル事ニ協定シ別紙償
還表ノ如ク国庫証券ヲ受領セリ

(以上)

民国十年四月二十日迄ノ元利合計額

日金一百四十五万九千三百四十一円六十銭

右年賦償還法左ノ如シ

償還年月日	利息及元金	金額
民国十年十一月三十日	利息	七一、六四七、六八
十一年五月三十一日	"	五八、三七三、六六
十一年十一月三十日	"	五八、三七三、六六

十二年五月三十一日	元	五八、三七三、六六
十二年十一月三十日	"	五八、三七三、六六
十三年五月三十一日	元	二九一、八六八、三二
十三年十一月三十日	元	四六、六九八、九三
十四年五月三十一日	元	二九一、八六八、三二
十四年十一月三十日	元	三五、〇二四、二〇
十四年五月三十一日	元	二九一、八六八、三二
十四年十一月三十日	元	二九一、八六八、三二
十四年五月三十一日	元	二九一、八六八、三二
十四年十一月三十日	元	二九一、八六八、三二

保商銀行関係

一、出資関係 ナシ

一、借款関係 当初同銀行ニ対スル大倉ノ債権ハ大正七年
二月二十一日財政部証券ニ切替ヘタルヲ以テ保商銀行ト
シテハ該債務関係ヲ結了セル訳ナリ
大正九年十月二日契約調印セル同行ニ対スル借款ハ総額
二百万円ニシテ本年九月迄ニ内金九十四万円ヲ回収セリ
右借款ハ保商銀行借款トナリ居ルモ同行ヨリ更ニ財政部
ニ転貸セラレシモノナルヲ以テ同行ノ營業資金ニ充当セ
ラレタルモノニ非ス現在大倉トシテハ同行ニ対シ此借款
以外何等ノ関係無シ

註 五二六号欠号